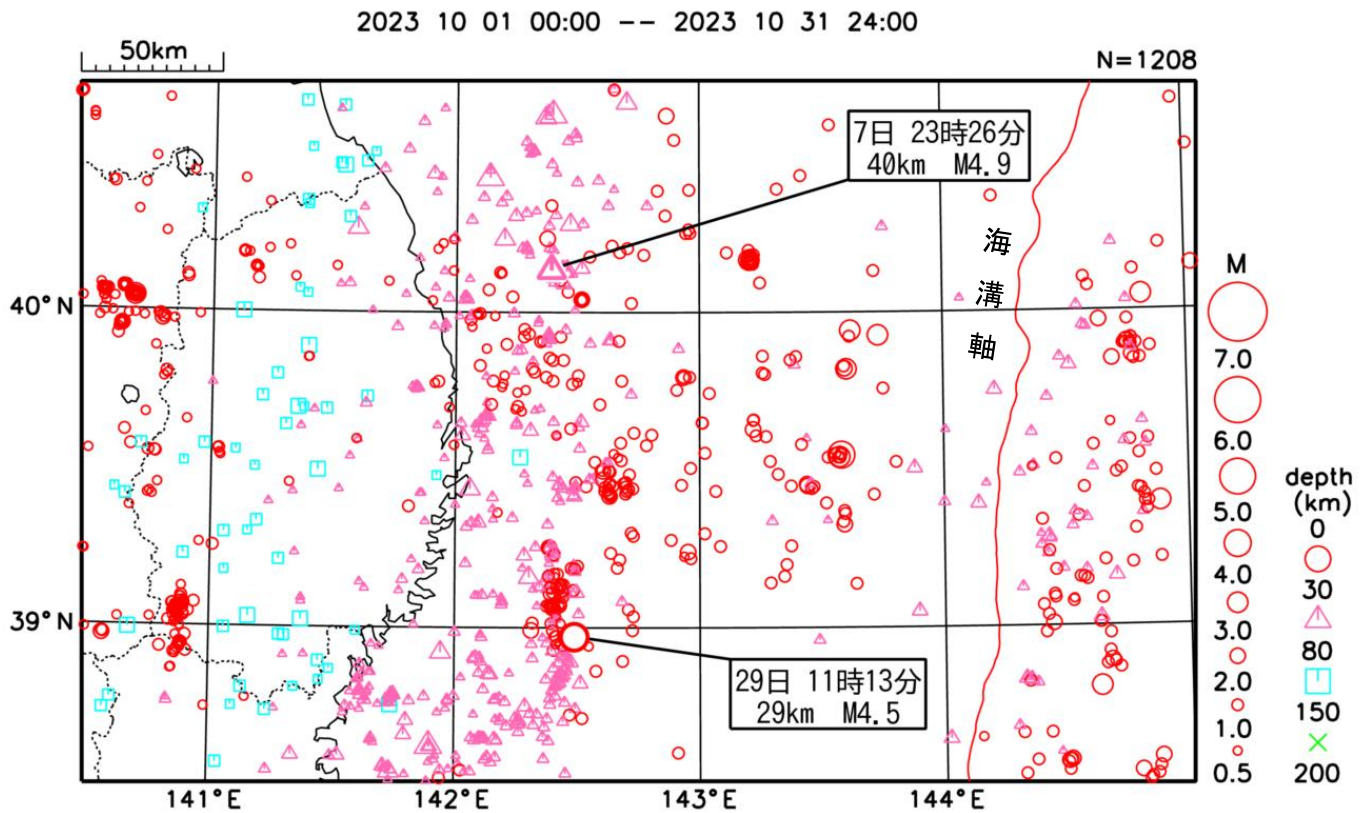


# 岩手県月間地震概況

2023（令和5）年10月

盛岡地方気象台

## 震央分布図



※吹き出しをつけた地震は概況でふれたものである。

## 【概況】

今期間、図の範囲内で観測した地震は1208回（先月1346回）、岩手県内で震度1以上を観測した地震は13回（先月14回）であった。

7日23時26分に岩手県沖の深さ40kmでM4.9の地震が発生し、東北地方で震度3～1を観測した。岩手県では普代村で震度3を観測したほか、全域で震度2～1を観測した。この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

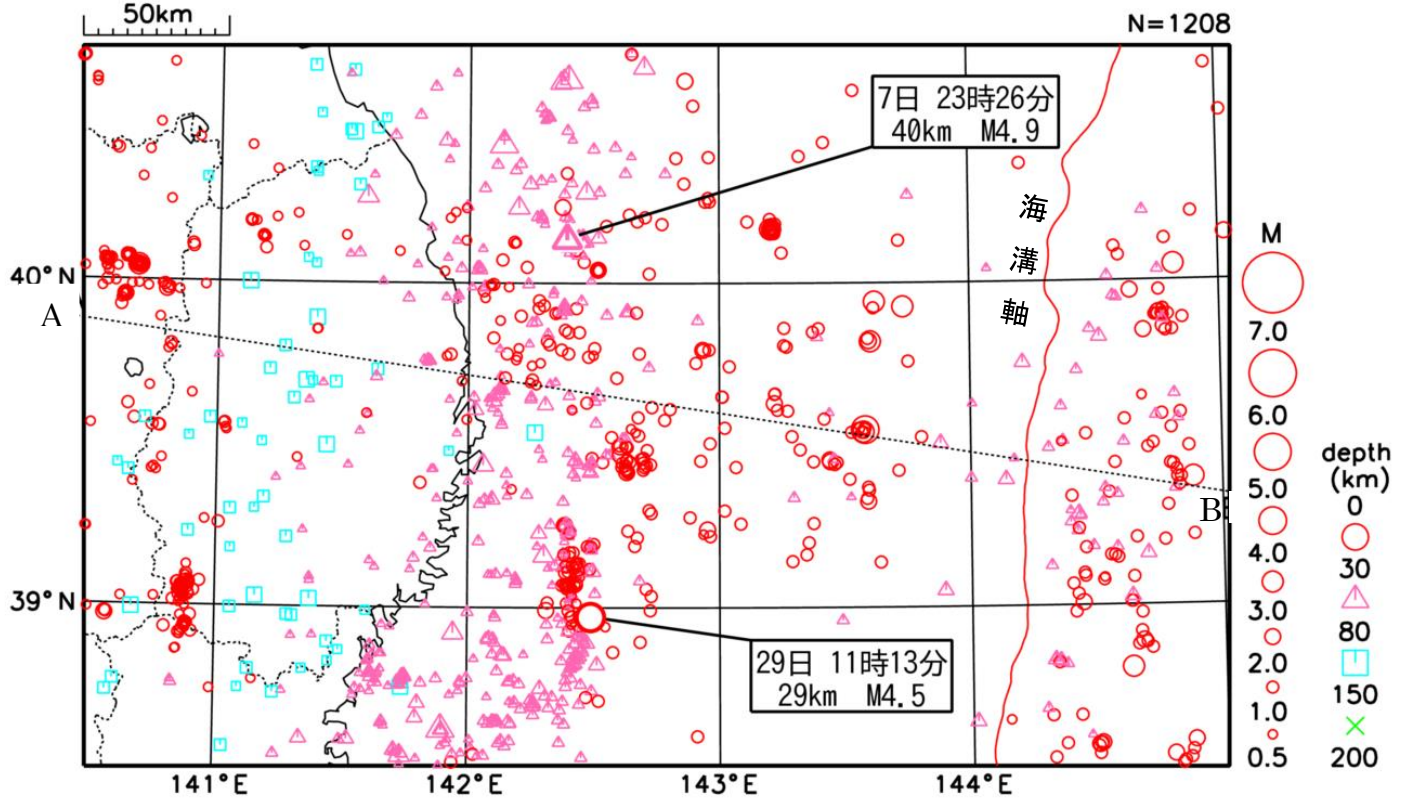
14日11時29分に青森県東方沖（図の範囲外）の深さ54kmでM4.7の地震が発生し、青森県東通村で震度3を観測したほか、北海道、青森県、岩手県で震度2～1を観測した。岩手県では久慈市、盛岡市、軽米町で震度2を観測するなど、県の北部を中心に広い範囲で震度2～1を観測した。この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

29日11時13分に宮城県沖の深さ29kmでM4.5の地震が発生し、青森県、岩手県、宮城県で震度2～1を観測した。岩手県では一関市と住田町で震度2を観測するなど、県の南部を中心に広い範囲で震度2～1を観測した。この地震から12分後の11時25分に、ほぼ同じ場所でM4.4の地震が発生し、一関市と住田町で震度2を観測している。

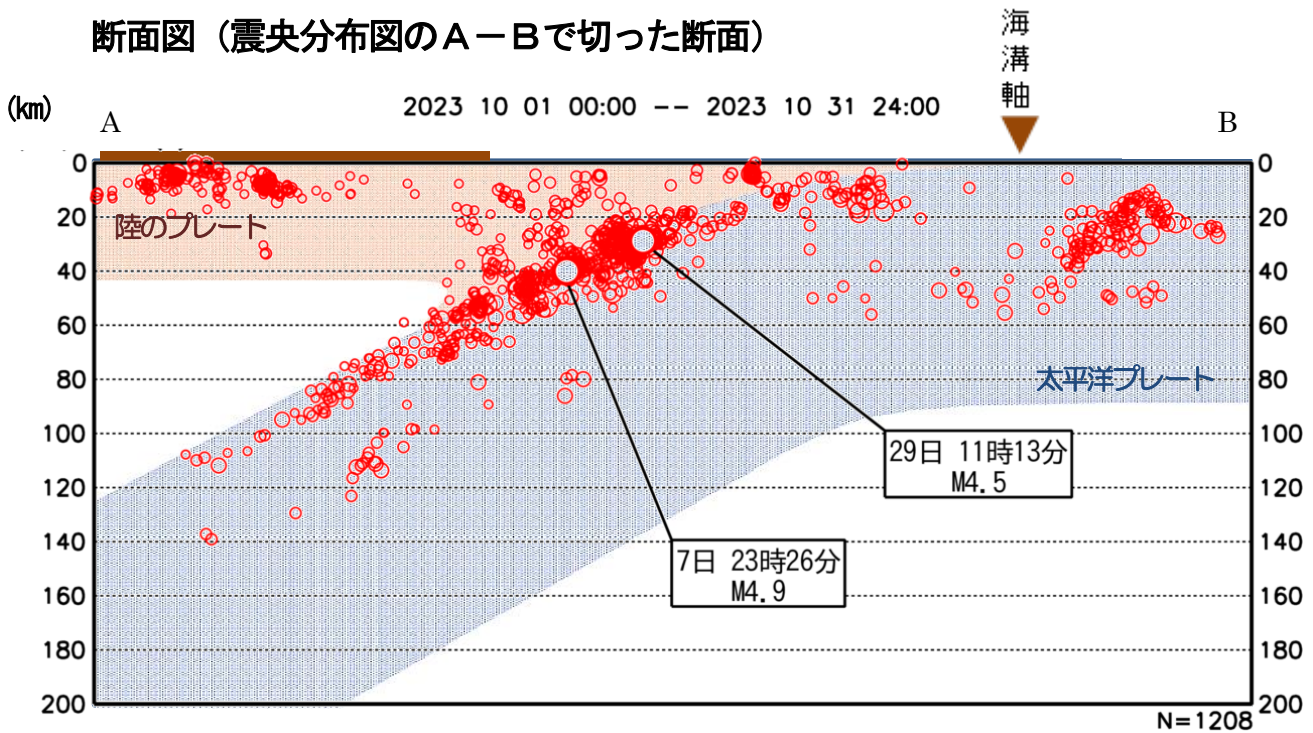
【注】各地の震度の詳細については、「岩手県で震度1以上を観測した地震」の表を参照。なお、使用した震源要素等は再調査により変更することがある。

# 震央分布図

2023 10 01 00:00 -- 2023 10 31 24:00



## 断面図 (震央分布図のA-Bで切った断面)



※陸地から遠く離れた海域 (概ね陸地から 200 km 以遠) ほど震源の深さ精度は良くない。断面図で見られる沖合の地震の震源は、実際にはより浅いところ (深さ 10~30km) のものが多いと考えられる。

※ は陸地の大きな位置を示している。

※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大きなものである。

# 岩手県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2023年10月1日～2023年10月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2023年10月01日13時25分	宮城県沖	38° 37.4' N	141° 53.8' E	47km	M4.0
岩手県	震度 1	大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 一関市大東町 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町*			
2023年10月04日12時52分	岩手県内陸北部	40° 15.8' N	141° 35.4' E	75km	M3.4
岩手県	震度 1	宮古市鉾ヶ崎 宮古市田老* 久慈市川崎町 久慈市枝成沢 岩手洋野町大野* 軽米町軽米* 九戸村伊保内*			
2023年10月07日23時26分	岩手県沖	40° 08.0' N	142° 23.4' E	40km	M4.9
岩手県	震度 3	： 普代村銅屋*			
	震度 2	： 宮古市鉾ヶ崎 宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市田老* 久慈市川崎町 久慈市枝成沢 久慈市長内町* 山田町大沢* 野田村野田* 大船渡市大船渡町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 大槌町小鏡* 盛岡市山王町 盛岡市藪川* 盛岡市洪民* 二戸市浄法寺町* 岩手町五日市* 八幡平市田頭* 軽米町軽米* 矢巾町南矢幅* 紫波町紫波中央駅前* 滝沢市鶴飼* 花巻市東和町* 一関市千厩町* 奥州市江刺* 奥州市胆沢*			
	震度 1	： 宮古市区界* 宮古市茂市* 久慈市山形町* 山田町八幡町 岩泉町大川* 岩泉町岩泉* 田野畑村田野畑 田野畑村役場* 岩手洋野町種市 岩手洋野町大野* 大船渡市猪川町 大船渡市盛町* 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 盛岡市馬場町* 二戸市福岡 二戸市石切所* 雫石町千刈田 雫石町西根上駒木野 葛巻町葛巻元木 葛巻町消防分署* 一戸町高善寺* 八幡平市大更 八幡平市叭田* 八幡平市野駄* 九戸村伊保内* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 花巻市大迫総合支所* 花巻市材木町* 北上市柳原町 北上市相去町* 遠野市青笹町* 遠野市宮守町* 一関市大東町 一関市竹山町* 一関市花泉町* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町* 金ヶ崎町西根* 平泉町平泉* 西和賀町沢内川舟* 奥州市水沢大鐘町 奥州市水沢佐倉河* 奥州市前沢* 奥州市衣川*			
2023年10月09日14時09分	国後島付近	44° 28.9' N	146° 22.5' E	175km	M5.5
岩手県	震度 1	： 盛岡市藪川* 八幡平市田頭*			
2023年10月11日23時10分	青森県東方沖	40° 37.5' N	142° 23.7' E	52km	M4.0
岩手県	震度 1	： 盛岡市藪川* 軽米町軽米*			
2023年10月13日18時59分	青森県西方沖	41° 03.7' N	140° 14.6' E	171km	M5.0
岩手県	震度 2	： 宮古市田老* 久慈市川崎町 野田村野田* 軽米町軽米*			
	震度 1	： 宮古市鉾ヶ崎 宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市区界* 久慈市枝成沢 久慈市長内町* 山田町八幡町 山田町大沢* 普代村銅屋* 岩手洋野町種市 岩手洋野町大野* 大船渡市大船渡町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 大槌町小鏡* 盛岡市藪川* 遠野市青笹町* 一関市千厩町* 一関市室根町*			
2023年10月14日11時29分	青森県東方沖	41° 30.7' N	142° 05.0' E	54km	M4.7
岩手県	震度 2	： 久慈市枝成沢 盛岡市藪川* 軽米町軽米*			
	震度 1	： 宮古市鉾ヶ崎 宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市区界* 宮古市田老* 久慈市川崎町 久慈市長内町* 野田村野田* 岩手洋野町種市 岩手洋野町大野* 釜石市中妻町* 住田町世田米* 大槌町小鏡* 盛岡市山王町 盛岡市洪民* 二戸市福岡 二戸市石切所* 二戸市浄法寺町* 葛巻町葛巻元木 八幡平市田頭* 九戸村伊保内* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 遠野市青笹町* 一関市室根町*			
2023年10月18日00時39分	岩手県沖	40° 13.9' N	142° 11.8' E	46km	M3.6
岩手県	震度 1	： 軽米町軽米*			

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2023年10月19日11時52分	宮城県沖	38° 55.2' N	141° 56.6' E	50km	M3.3
岩手県	震度1	：一関市室根町*			
2023年10月22日21時48分	岩手県沖	40° 25.5' N	142° 08.1' E	36km	M4.3
岩手県	震度2	：軽米町軽米*			
	震度1	：宮古市川井* 宮古市区界* 宮古市田老* 宮古市茂市* 久慈市枝成沢 岩手洋野町大野* 釜石市中妻町* 住田町世田米* 大槌町小鍬* 盛岡市山王町 盛岡市馬場町* 盛岡市藪川* 盛岡市洪民* 二戸市福岡 二戸市浄法寺町* 葛巻町葛巻元木 岩手町五日市* 八幡平市大更 八幡平市田頭* 九戸村伊保内* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 遠野市青笹町* 一関市室根町*			
2023年10月26日02時41分	宮城県沖	38° 32.4' N	141° 44.2' E	53km	M3.7
岩手県	震度1	：大船渡市大船渡町 住田町世田米* 一関市室根町* 一関市藤沢町*			
2023年10月29日11時13分	宮城県沖	38° 58.2' N	142° 29.3' E	29km	M4.5
岩手県	震度2	：住田町世田米* 一関市千厩町* 一関市室根町* 一関市藤沢町*			
	震度1	：宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市区界* 宮古市田老* 山田町大沢* 大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 釜石市中妻町* 大槌町小鍬* 盛岡市山王町 盛岡市藪川* 盛岡市洪民* 八幡平市田頭* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 花巻市大迫総合支所* 花巻市東和町* 北上市柳原町 北上市相去町* 遠野市青笹町* 遠野市宮守町* 一関市大東町 一関市竹山町* 一関市花泉町* 一関市東山町* 金ヶ崎町西根* 平泉町平泉* 奥州市胆沢*			
2023年10月29日11時25分	宮城県沖	38° 58.2' N	142° 29.3' E	28km	M4.4
岩手県	震度2	：住田町世田米* 一関市室根町*			
	震度1	：宮古市五月町* 宮古市田老* 山田町八幡町 山田町大沢* 大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 釜石市中妻町* 大槌町小鍬* 盛岡市藪川* 盛岡市洪民* 八幡平市田頭* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 北上市相去町* 遠野市青笹町* 一関市大東町 一関市花泉町* 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市藤沢町* 平泉町平泉*			

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は岩手県のみを示し、\*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。



# 北海道・三陸沖後発地震注意情報

## 続いて発生する巨大地震の可能性！ 情報で備えを

### 北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

三陸沖や北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）の領域では、マグニチュード（M）7クラスの地震が発生した後に、さらに大きな地震が発生した事例が確認されています（図1）。そこで、続いて発生する地震（後発地震）が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、この領域でM7以上の地震が発生した場合に、北海道・三陸沖後発地震注意情報を発信して、**大きな地震の発生への備えを呼びかけます。**

（※先に発生した地震を「先発地震」、それに続いて発生する地震を「後発地震」と呼びます。）

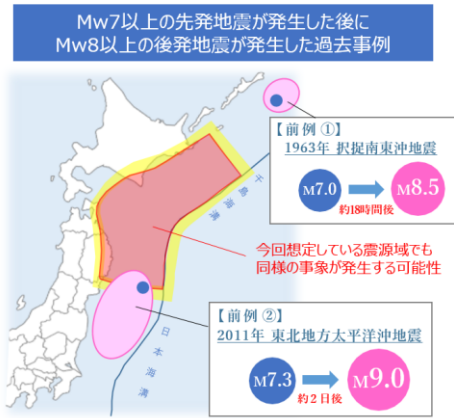


図1 情報の対象領域（赤枠内）と過去の後発地震の事例

### 情報が発信されたときは何をすればよい？

この情報は、後発地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることをお知らせするものです。情報が発信された場合は、**1週間程度、平時よりも巨大地震の発生に注意し、地震への備えを徹底しましょう。**具体的には、家具の固定や安全な避難場所・避難経路の確認などの、日ごろからの**地震への備えの再確認**に加え、揺れを感じたり、大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、津波警報等という）が発表されたりした際に、**直ちに津波から避難できる態勢の準備**などを行ってください（図2参照）。


<p>【地震時に迅速な避難が必要な場合】 揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢の準備</p>	<p>【リスクの高い場所に入る可能性がある場合】 想定されるリスクからの身の安全を確保する備え</p>	<p>後発地震に注意し 誰もが実施すべき備え</p>
<p><b>すぐに避難できる態勢での就寝</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ すぐに逃げられる服装で就寝</li> <li>✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝</li> <li>✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用</li> </ul> 	<p><b>揺れによる倒壊への備え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等に近づく際には、地震による倒壊リスクを意識して、倒壊にまきこまれないよう行動</li> </ul> 	<p><b>緊急情報の取得態勢の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく</li> <li>✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置</li> </ul> 
<p><b>非常持出品の常時携帯</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く</li> <li>✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯</li> <li>✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く</li> </ul> 	<p><b>土砂災害等への注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所や地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクを意識して、いつでも避難できるようにする</li> <li>✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える</li> </ul> 	<p><b>平時からの備えの再確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 水や食料等の備蓄の再確認</li> <li>✓ 避難場所・避難経路等の再確認</li> <li>✓ 家具の固定の再確認</li> </ul> 

図2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発信されたときの防災対応の例（「内閣府(防災担当)・気象庁」の資料を一部改変）

## 北海道・三陸沖で発生が想定されている巨大地震とは？

中央防災会議では、東北地方や北海道沿岸の過去の津波堆積物を調査し、津波堆積物が見つかった地点まで津波が浸水しうるモデルを作成し、最大クラスの巨大地震の地震・津波を想定しました。日本海溝沿い（三陸・日高沖）の巨大地震では、東北地方で最大高さが**約30mの津波**と**最大震度6強の揺れ**が想定されています（図3）。

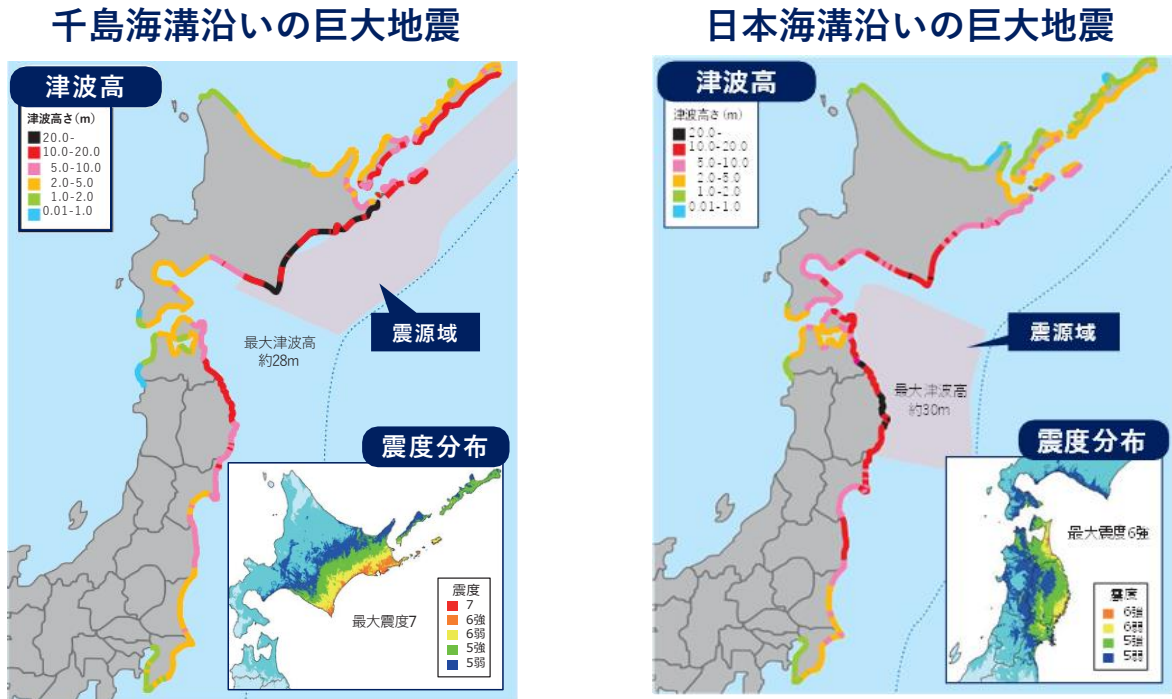


図3 千島海溝沿い（左）・日本海溝沿い（右）の巨大地震で想定される津波と震度（中央防災会議，2022 による）

## 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で想定される被害は？

中央防災会議では、これらの巨大地震について、発生する季節や時間帯、事前対策の有無など様々な条件下での被害想定を行いました。その結果、最悪の条件では、死者数が約199,000人に上る結果となった一方で、**事前の備えと迅速な避難により死者が8割減る**結果も得られています。

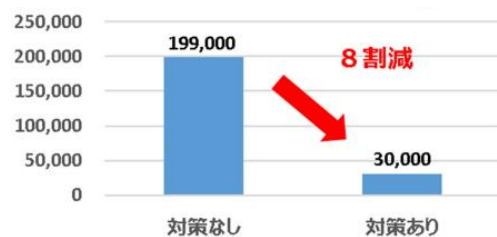


図4 日本海溝沿いの巨大地震による死者の想定（中央防災会議,2022 による）  
（冬季・深夜発生の場合）

## 日頃からの備えが重要です

実際に後発地震が発生する確率は、世界の事例を踏まえると100回に1回程度で、極めて不確実性が高く、それに応じた防災対応は大変難しいという背景があります。しかし、ひとたび巨大地震が発生すると、その被害は甚大なものとなります。情報発信時に後発地震が起こらなかった場合でも、「空振り」と捉えるのではなく、地震への備えの徹底や防災意識の向上につながる予行演習としての「素振り」と捉えましょう。

また、先発地震を伴わずに巨大地震が発生する場合も多いです。そのため、突発的に地震が発生した場合を想定し、日頃から地震への備え（事前防災対策）を徹底しましょう。その上で、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発信時には地震への備えを再確認するようにしましょう。